

P E R S P E C T I V E

—— 視点を変えて「み」る

CHANGE YOUR PERSPECTIVE

CHANGE YOUR PERSPECTIVE



2022

8.1_{Mon} — 9.29_{Thu}

9:00–17:00 筑波大学芸術系ギャラリー（筑波大学芸術系棟 2 階）
土日祝休館 / 入場無料

筑波大学アート・ストリート
UTARTSTREET 



博物館実習（芸術系博物館履修者）の企画による筑波大学アート・コレクション展
主催：筑波大学芸術系／筑波大学芸術専門学群

P E R S P E C T I V E

P E R S P E C T I V E

視点を改めて「み」る

perspective の語源とされるラテン語には、「入念に見る」という意味がある。今日 perspective は、さまざまな物事に対するわたしたちの視点や見方、考え方、さらには見通しや遠近感などを表している。SNSなどを介して、ある答えに簡単にアクセスできる現代社会において、わたしたちは自ら思考することを放棄してはいないだろうか。美術作品をめぐるでもまた、批評家による評価や解釈と、メディアによる仕掛けに縛られて鑑賞してはいないだろうか。しかし、作品がもつ魅力は、単に既存の解釈によって引き出されるのではなく、むしろわたしたち自身が一見して感じとり、自分なりに「入念に見る」ことで気づく部分も多い。

今回の展示では、鑑賞する位置やアプローチのしかたの変化によって「入念に見る」ことの多様な糸口が提示される作品3点を選んだ。遠くから見えていたものが、近くに立つとまったく異なって見えるかもしれない。遠くからだと平板なイメージとして捉えられていたものが、近づくにつれて、その世界に入り込むような感覚を覚えさせるものにも変わるかもしれない。また、作者の意図に沿いながら鑑賞する場合と、作者自身も想定していなかったような視点で鑑賞する場合とでは、その作品から得られる印象が違ってくだろう。単に「見」るだけでなく、視点を改めて「み」ることで、それぞれの作品世界の広がりを感じてほしい。

展示作品



船岳紘行《底の手》
2010年 油彩、綿布
194×130.3cm



福田健二《霖雨》
2010年 紙本彩色
181.8×227.3cm



土井敬真
《もう、ずっと待ってる》
1999年 樟・松
180×247×152cm

●本展覧会の企画について

この展覧会は、博物館学芸員資格に関わる授業の総仕上げである「博物館実習」のプログラム「学内実習」の成果です。筑波大学芸術系では、現職および退職教員や、芸術専門学群および大学院の卒業・修了生からの寄贈作品や卒業・修了制作の優秀作品など400点以上を管理していますが、受講生はグループに分かれ、コンペティション形式でこの学内コレクションを活用した展覧会企画案を立案しました。実施案として全員で取り組むために最終的に選ばれたのが、本企画です。今年の企画案にはこの2年半のコロナ禍における他者との距離に関するものが多くみられました。社会の動きに目を向け、美術館の根幹をなすコレクションをどのような文脈で鑑賞者に提示するのか、そこに企画者の力量が表れます。学芸員を目指す学生たちの初めての企画をどうぞご覧ください。(林みちこ)

フライヤー / A.R.T. サイトページ作成：伊藤夢絵、市川結己 / 稲田和巳

授業担当教員 (いずれも筑波大学芸術系)
寺門臨太郎、林みちこ、水野裕史

2022年度博物館実習(芸術系博物館)履修者
荒井優月、市川結己、伊藤夢絵、稲田和巳、江里萌
瑛、江本萌衣、大平香純、木下碧、小池真莉、嵯峨未
玲、里村亜呼、下山雄大、正原摂子、白土恵、波村桜
子、藤川朋伽、藤村美吹、宮川嵩広(五十音順)

